

関東同窓会で日展鑑賞会（11月8日）

上原 昇（2組）

昨年に引き続き、関東同窓会主催の会員交流イベントの、日本美術展覧会（日展）鑑賞会に参加しました。

11月8日（土）11時、会場の国立新美術館（六本木）に同窓生とその家族14名が集合しました。

幹事は関東同窓会副会長の掛川治男さん（73期）です

日展は今回が118回という古い歴史を刻んでいる美術展です。

日本画、洋画、彫刻、工芸、書の5分野からなる会場の中で、2階の彫刻会場にて、これも昨年同様、日展会員の彫刻家、堀内秀雄さん（73期、東京成徳短大教授）による懇切丁寧な解説を聞きながらの鑑賞となりました。

彫刻会場での出品は206点（うち144点は無鑑査、一般の入選率は82%）で年々減少傾向が続いているそうです。彫刻は大きくて重い作品が多いので、作るのも、運搬するのも、所蔵するのも大変だからでしょうか。

因みに第3科の彫刻以外の分野の出品数は、第1科の日本画が288点、第2科の洋画が663点、第4科の工芸美術が571点、第5科の書が一番多く1,279点です。

彫刻作品の見どころは、堀内さんの持論では ①コンセプト ②造形性 ③素材の三つ。

堀内さんはその三つのベン図の重なり合うところを狙って制作しているという話は説得力があります。

今回の堀内さんの出品作の題は『ある ^{ことわり}理 - 共鳴と変節』です。（写真）

また、「美術鑑賞とは作る人と観る人との知的ゲームである」という言葉にもなるほどと頷かされました。

NHKの“チコちゃんに叱られる”ではありませんが、「ポーっと、見てるんじゃないー！」ということです。

当日、筆者は講義も含め彫刻作品をしっかりと2時間をかけて観たこともあり、残念ではありますが、他の会場を回る体力は残っていませんでした。



なお、日展の東京開催は11月23日まで、以降、京都、名古屋、大阪、安曇野（来年の5月2日から安曇野市美術館にて）、金沢と巡回していきますので、関心のある方はお見逃しなく。

自作の前で解説をする堀内さん

（2025年11月16日記）

以上